

残留農薬検査(その1)

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成22年度より農産物当たりの検査項目数を追加し、検査体制を一層強化しています。

今回は、平成25年4月から9月までに食品専門監視班より搬入された農産物等の検査結果を報告します。

◇ 市内産農産物

8月に搬入されたなす(5検体)、日本なし(3検体)及びぶどう(2検体)、9月に搬入されたきゅうり(1検体)、こまつな(4検体)、さつまいも(3検体)及びなす(5検体)の計23検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。その結果、こまつな3検体、日本なし3検体及びぶどう2検体から計12項目の農薬が検出されました。ただし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

クレソキシムメチル、クロルフェナピル、フェンプロパトリン及びペルメトリンについては平成21～24年度に検査を行った日本なし及びぶどうからも検出されており、よく使用されている農薬であると考えられました(農薬の概要については下記を参考にしてください。)

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

【農薬解説】

クレソキシムメチル

『ストロビー』などの商品名で一般的に販売されている殺菌剤です。特にうどんこ病、黒星病、べと病などに対して効果があるとされています。

クロルフェナピル

『コテツ』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。多くの野菜に適用があり、従来の殺虫剤に耐性がある害虫に対しても効果があります。

フェンプロパトリン

『ロディー』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。広範囲の害虫(特にハダニ類)に対して有効的に作用する農薬です。

ペルメトリン

『アディオン』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。茶、果樹、野菜などの主要害虫の防除に使用される農薬です。

表1 残留農薬検査結果

(H25年4月～H25年9月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
きゅうり	横浜市	1	0			
こまつな	横浜市	4	1	イミダクロプリド	0.01	5
			2	クロルフェナピル	0.03、2.09	5
さつまいも	横浜市	3	0			
なす	横浜市	10	0			
日本なし	横浜市	3	1	アセタミプリド	0.01	2
			2	クレソキシムメチル	0.03、0.53	5
			2	クロチアニジン	0.02、0.03	1
			1	クロルフェナピル	0.09	1
			1	チアメキサム	0.05	1
			1	テブコナゾール	0.04	5
			1	デルタメトリン	0.02	0.5
			2	フェンプロパトリン	0.06、0.24	5
			1	ブプロフェジン	0.09	2
			1	ペルメトリン	0.04	2.0
ぶどう	横浜市	2	1	イミダクロプリド	0.02	3
			1	クレソキシムメチル	0.03	15
			1	クロルフェナピル	0.02	5
			1	フルバリネート	0.01	2.0
			1	ペルメトリン	0.01	5.0

表2 農薬の検査項目及び検出限界(114項目)

農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)
BHC(α、β、γ及びδの和)	0.005	シハロトリン	0.01	フェニトロチオン	0.01
DDT(DDE、DDD及びDDTの和※)	0.005	シフルトリン	0.01	フェンクロルホス	0.01
EPN	0.01	シペルメトリン	0.01	フェンスルホチオン	0.01
アクリナトリン	0.01	ジメチルビンホス	0.01	フェンチオン	0.01
アセタミプリド	0.01	ジメトエート	0.01	フェントエート	0.01
アゾキシストロビン	0.01	シメトリン	0.01	フェンバレレート	0.01
アルドリン及びディルドリン	0.005	スルプロホス	0.01	フェンピロキシメート	0.01
イソフェンホス	0.01	ダイアジノン	0.01	フェンプロパトリン	0.01
イソプロカルブ	0.01	チアクロプリド	0.01	ブタクロール	0.01
イプロベンホス	0.01	チアトキサム	0.01	ブタミホス	0.01
イミダクロプリド	0.01	チオベンカルブ	0.01	ブプロフェジン	0.01
インドキサカルブ	0.01	チフルザミド	0.01	フルジオキソニル	0.01
エスプロカルブ	0.01	テトラクロルビンホス	0.01	フルシトリネート	0.01
エチオン	0.01	テトラコナゾール	0.01	フルトラニル	0.01
エトプロホス	0.005	テトラジホシ	0.01	フルバリネート	0.01
エトリムホス	0.01	テブコナゾール	0.01	フルフェノクスロン	0.01
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	テブフェノジド	0.01	プロシミドン	0.01
エンドリン	0.005	テブフェンピラド	0.01	プロチオホス	0.01
オキサミル	0.01	テフルトリン	0.01	プロパホス	0.01
カズサホス	0.01	テフルベンズロン	0.01	プロピザミド	0.01
カフェンストロール	0.01	デルタメトリン及びトラロメトリン	0.01	プロメカルブ	0.01
カルバリル	0.01	テルブホス	0.005	プロモプロピレート	0.01
クレソキシムメチル	0.01	トリアジメノール	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
クロチアニジン	0.01	トリアジメホシ	0.01	ヘキサフルムロン	0.01
クロマフェノジド	0.01	トルクロホスメチル	0.01	ヘプタコル(エポキシトを含む)	0.005
クロルピリホス	0.01	パラチオン	0.01	ペルメトリン	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	パラチオンメチル	0.01	ペンコナゾール	0.01
クロルフェナピル	0.01	ハルフェンプロックス	0.01	ホサロン	0.01
クロルフェンソン	0.01	ピフェントリン	0.01	ボスカリド	0.01
クロルフェンビンホス	0.01	ピペロホス	0.01	マラチオン	0.01
クロルプロファム	0.01	ピラクロストロビン	0.01	ミクロブタニル	0.01
クロロクスロン	0.01	ピリダフェンチオン	0.01	メチダチオン	0.01
シアノフェンホス	0.01	ピリブチカルブ	0.01	メキシフェノジド	0.01
シアノホス	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	メトラクロール	0.01
ジオキサベンゾホス	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	メビンホス	0.01
ジクロフェンチオン	0.01	ピリミホスメチル	0.01	リニユロン	0.01
ジクロラン	0.01	ピリメタニル	0.01	リンデン(γ-BHC)	0.002
ジコホール	0.01	フェナリモル	0.01	ルフェヌロン	0.01

※ DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

※参考文献

- ・社団法人日本植物防疫協会，農薬ハンドブック2011年版
- ・農薬残留分析法研究班，最新農薬の残留分析法(改訂版)

【 検査研究課 微量汚染物担当 】